

## 住友信託銀行ニューヨーク支店に「仮想PCシンクライアントシステム」を納入

NECの米国現地法人であるNECコーポレーション・オブ・アメリカ（NECAM）は、住友信託銀行ニューヨーク支店に対し、社内情報システム全般のセキュリティと事業継続（BC：Business Continuity）基盤の強化を実現するシンクライアントシステムを納入し、同システムの運用が開始された。邦銀の海外支店において、仮想化技術を用いたシンクライアントシステムの導入は初めてである。

同システムは、災害・事故発生時に、自宅など遠隔地からシンクライアント端末を用いて社内の主要な情報システムにセキュアにアクセスして業務継続を実現するもので、住友信託銀行におけるシンクライアントシステム展開の第一弾として、30台のシンクライアント端末が導入された。なお同システムは、サーバ上に利用者一人一人の異なるPC環境を仮想化・集約して稼働させ、CPUなどサーバのリソースを利用者の負荷に応じて自動的に割り振る、NECの仮想PC型シンクライアントシステム「VirtualPCCenter」を採用。また同システムの構成は、モバイルノート型シンクライアント端末「TCM160」、仮想PCサーバ、統合管理サーバ、VPNサーバ、統合管理ソフトウェア「WebSAM SigmaSystemCenter」、VMware社の仮想化基盤ソフトウェアを中核にしている。同システムの特長は以下の通り。

### 事業継続（BC）基盤とセキュリティ対応を強化

◆広域災害対策やテロ対策などの一環として、特に鳥インフルエンザなどの伝染病の全世界的な流布に備え、インターネットをセキュアに活用する技術（VPN）を用いて自宅などの遠隔地のシンクライアント端末から社内の主要な情報システム（業務系・情報系・OA系など）にアクセスすることで、事業継続計画（BCP）を実現。  
◆利用者の端末にデータを保存することを物理的に不可能としているため、情報漏洩やウイルス侵入を防御する

セキュリティ対応を強化しており、事業継続基盤とともに高セキュリティな業務環境を同時に実現。

### 仮想化技術により、システムの柔軟な移行・高いユーザビリティ・高拡張性を実現

◆仮想化技術により、システム移行時に、各端末やサーバーシステムの環境設定変更や追加開発が不要になるなど高い移行性を実現するとともに、エンドユーザー業務とシステム管理業務両面における高いユーザビリティ（運用性）、管理業務の容易性を実現。また、数万台レベルの大規模なシンクライアントシステムを管理可能なソフトウェア「WebSAM SigmaSystemCenter」を採用し、将来的に同システムを全社あるいは他の海外支店に展開する場合も、利用者の増大や対象業務システムの拡大に柔軟な対応が可能。

近年、金融機関では、コスト増を抑えながらセキュリティ環境や事業継続基盤を強化し、新サービス・商品の開発や顧客サービス向上を実現することが求められている。そのため、このようなニーズを満たす拡張性に優れたセキュリティマネジメントシステムの構築や、統合的なシステムプラットフォームに対する期待が高まっている。このような中、数多くの稼働実績をもつNECの仮想PC型シンクライアントシステムが、住友信託銀行ニューヨーク支店で採用された。これにより同社は、従来業務ごとに構築されてきたデスクトップ環境の統合、最新のセキュリティ技術の導入やTCOの削減、事業継続を実現するシステム／サービスの提供を加速する。

NECは、2007年7月に北米で通信関連事業を担当する「NECアメリカ」、IT関連事業を担当する「NECソリューションズ（アメリカ）」および地域統括会社である「NEC USA」の3社を統合し、ITとネットワークを統合したソリューションの提供を実現する「NECコーポレーション・オブ・アメリカ」を発足させた。同社は、あらゆるニーズに対して効果的なIT・ネットワークソリューションを提供し、北米事業の強化を図っている。

NEC 海外ソリューション推進本部  
TEL：03-3798-6042